

特集「システム開発とプロジェクトマネジメントⅣ」の発行に寄せて

橋 本 博 文

近年、ソフトウェアは様々なシステム・機器に組み込まれ、社会システムや企業の基盤として、企業活動の安定性・優位性に欠かせない存在となっている。そして、ビジネスのスピードが以前にも増して早まっている中、SoR 領域におけるソフトウェア開発規模の拡大、開発期間の短縮化、開発主体の多様化などが発生し、その結果生じている情報システムを原因とするトラブルの影響拡大の意味から、システム開発プロジェクト（SI プロジェクト）に求められる役割はますます重要なものとなっている。

弊社は2018年に創業60年を迎えようとしている。これまで数多くのSIプロジェクトを経験してきたが、本特集号で対象とするSIプロジェクトは、弊社の歴史において、規模・期間・難易度ともに最上位に位置付けられるものである。

弊社の開発組織は、顧客の業務領域に応じて、金融・製造流通・公共の3部門、技術系領域として、基盤技術・品質保証の2部門に大別される。通常は業務領域毎の部門内でプロジェクト編成されるが、本プロジェクトは量・質的に単一部門だけの体制編成が難しいとの判断から、全部門より開発経験豊富なメンバを招集して編成することとした。部門を跨る全社プロジェクト体制で、高難易度の開発にチャレンジするという意味も込めて、プロジェクトのスローガンを「We Make New History!」と掲げることとした。

プロジェクト立ち上げ期には、基本計画・リスクを経営層と共有するよう心がけ、開発過程で発生する様々な問題については、事実認識⇒対策検討⇒対策実施と効果評価のサイクルを回しながら、事実を可視化し、顧客と一丸となってプロジェクトの透明性を高めてきた。

SIプロジェクトは「システムを本番稼働させる」ことを第一目的とするが、その活動を通じて、「若手の育成」・「稼働後の技術・運営を含めた保守スキームの確立」の目的も持つ。本プロジェクトにおいては、本番稼働は無論のこと、人材育成や保守確立という面も含めて当初目的を達成したと考えている。今回の開発を通じて得た技術・経験は、整理して弊社内の他プロジェクトでの活用へ展開していく。

現在、構築したシステムは安定稼働しており、業務改善・拡張に合わせた保守開発を進めている。プロジェクト体制も再編成し、これまでの経験を活用しながら効率的・安定的な開発を目指した「We Make New History 2nd Stage!」に入っている。

本特集号では、大規模システム開発に必要なマネジメントやチームビルディング、アプリケーション開発、品質管理、性能管理、移行方式、運用管理、マルチベンダ対応への取り組みなどを紹介しているが、当たり前のことを確実に実施し続けること、可視化し透明性を保つことが基本となっている。本特集号が、大規模システムだけではなく、システム開発に関わるあらゆる方々の一助となれば幸いである。

(執行役員 ビジネスサービス部門 第一ユニット長)